

子ども・若者暮らしサポートの場広がる

家庭の事情を抱えた子どもや経済的に厳しい若者の生活をサポートする「居場所」が広がっています。現場を訪ねると、子どもたちの意欲や自己肯定感をほぐくむ仕掛けと工夫がありました。

学び遊び働いて報酬

大阪府の北部、箕面市の市立萱野中央入権文化センター「らいとびあ21」には、放課後の居場所びあびあルームがある。毎日平均20人の小学生たちがやってくる。

ある日職員が呼びかけた。「畑の草むしりするよ。50まーぶ！」

「まーぶ」とは子どもたちが学び、遊び、働いて手に入られる通貨単位。得たまーぶは、食事やおやつ、祭りのゲームコーナーで使える。

仕事はルームの「ハローワーク」で見つける。掲示板の求人票を見ると「ニュースレター配り時給100まーぶ。朝市の手伝いは働き具合によって時給1000〜2000まーぶ。勉強を頑張っているね」と50まーぶをあげることや、草むしりのように急ぎの仕事が発生する時もある。らいとびあ21を運営するNPO法人「暮らしづくりネット

した。洗い物(50まーぶ)と配膳(50まーぶ)の仕事をつくり、二つ揃えば翌日の食事が担保されるようになった。家庭事情で食費を抜く子やカツ麺が細く子もいるから。のべ88人がまーぶで食べた。小学校高学年の子は「おつかいをしてまーぶをもらって、昼ご飯が食べられた」と満面の笑みを見せた。

保護者の経済力や教育力の差が広がり、子どもが主体的に生きていく力をつけるための経験にも格差が生じている。松村さんは「まーぶをきっかけに家庭や学校以外の人とつながり、視野を広げ、社会の仕組みを知ってほしい」と話した。

食事提供 勉強も応援

豚肉をごま油で炒める香りが漂う。神奈川県相模原市南区にある若者の居場所「piece」は、商店街の空き店舗を使っていて、スタッフと若者が作っていたのは屋敷の中華丼と春雨サラダ。利用者の男性(21)は「切れる包丁はいいですね。うちは百貨店で買ったもので、とつぶや

時制高校に通う子の宿題を手伝い、無職者の就労や自立を支える。

支援のきっかけづくりとして料理の時間がある。実際、食事がとれていない、家族がいても一緒に食べる経験がほとんどない、という子がいる。

男性も肉を食べるのは2週間1回、業務用スーパード鶏のひき肉を買うぐらいだという。母親と中学2年生の妹との3人暮らし。母親に「高校に行かなくていいから働いて」と言われるがままにそうしてきた。いま、商店街の八百屋で職業訓練をしながら、週3回、ピースで中学の勉強をやり直している。

ピースが用意したアパートで一人暮らしも試した。金銭管理や家事を経験して思った。「生きていくには人とのつながりが大事なんです。このままじゃいけないって自分なりに頑張ってます」

小林和明・南福祉事務所長は「社会と接点が少ない子は孤立しやすい。困った時に地域で相談できる場にした」という。居場所づくりに関与した東林間商店街振興組合の前理事長佐藤昇さん(73)は「子どもにはすくすく育ててもらいたいと思うもの。成長には経験が大事なんだよね」と話す。(中塚久美子)



草むしりをして50まーぶを稼いだ子どもたち。この後、びあびあルームで売った50まーぶのおやつを買って食べた＝大阪府箕面市

支援団体 京都で交流会 29日

子どもが学びの機会や夢を奪われ孤立しないよう、各地で市民が活動を始めている。生活支援や無料学習教室、高校中退者の学び直しや就労・自立支援の取り組みを語り合う「学びサポート×暮らしサポート全国実践交流会」が29日、京都市で開かれる。報告するのは北海道、東京、埼玉、京都、大阪、高知、福岡、沖縄の団体。午前10時20分から、京都市中京区東洞院通六角下ルのウィングス京都。参加500円(学生無料)。「なくそう!子どもの貧困」全国ネットワーク・京都実行委員会事務局ヘファクス(075・201・3490)か、ホームページ (<http://end-childpoverty.jp/>) から申し込む。

子どもを守るあなたを守る

大阪の病院で「支援外来」

虐待や貧困といった子どもの問題に取り組む大人を支えようと、浪速生野病院(大阪市浪速区)が「子ども支援サポート外来」を開いている。「外来」と名付けているが、医師ら専門家が無償で相談に応じる珍しい取り組みだ。

「援助する側」を援助する狙いで、対象は教員や保育士ら。7月27日にスタートし、10件を超す相談が寄せられた。いずれも精神疾患や虐待、家庭の貧困といった問題が複雑に絡み合う。

医師、臨床心理士、精神保健福祉士、社会福祉士らがチームを組んで継続的に助言している。

ストレスから心を病んで休職する教員が増えるなど、援助者のメンタルケアは大きな課題になっている。浪速生野病院の生野照子・心身医療科部長は「子どもを支えながら、どこにアドバイスを求めているかわからず悩みを抱える人が目立つ。専門的な視点から一緒に解決の道を探りたい」と話している。

原則として月2回、金曜日午後2～5時に相談を受け付ける。要予約。申し込みはメール(stress-therapy@ivy.ocn.ne.jp)で。(永田豊隆)